

7月21日に小学校英語教育研修を開催しました

7月21日、文部科学省初等中等教育局 直山木綿子視学官を講師に迎え、小学校英語教育研修を開催しました。オンラインで約250名の参加がありました。研修では、直山視学官から「指導と評価の一体化」や「言語活動」について講義をいただいた後、参加者はグループに分かれ、これまでの実践を振り返るとともに、今後の取組について考えました。



本号では、直山視学官の講義の内容を紹介します。

【単元の目標】「身近な人を紹介する語句や表現を理解し、身近な人について、その人の魅力を含めて、他者に配慮しながら紹介することができる。」

1 指導と評価の一体化

講義の前半は、直山視学官が提示された学習指導案（以下「指導案」）をもとに、その改善点を考えました。

① 単元の目標と評価はつながっていますか。

単元目標には、子どもたちがどのような活動を通して、どの領域の力を身につけるのかが記されています。例えば指導案で示されている「単元の目標」からは、この単元で子どもたちが

単元の目標と評価がつながっていない

【評価規準】「聞くこと」「話すこと[やり取り]」「書くこと」

「話すこと[発表]」の力を身につけることが目標であることが分かります。しかし、「単元の評価規準」をみると、「聞くこと」「話すこと[やり取り]」「書くこと」の3領域の評価規準が示されています。つまり、単元の目標と評価規準がつながっていません。単元の目標を達成するために、子どもたちの何を見取る必要があるのか、適切な評価が重要です。この単元計画には、子どもたちが身近な人の魅力を紹介する「話すこと[発表]」の力を見取る必要があります。

目標と評価がつながるように、どの単元でどの領域を「記録に残す評価」として見取るのか、評価場面を精選して、5領域（「聞くこと」「読むこと」「話すこと（やり取り）」「話すこと（発表）」「書くこと」）をバランスよく評価できるよう、年間計画を立てることが大切です。※目標に複数の領域がある場合、目標に向けて指導は必要であるが、「記録に残す評価」としては、その一部でも可である。

② 評価の時期は目標にあっていますか。

指導案の単元指導計画には、単元の1時間目に「聞くこと」の「主体的に学習に取り組む態度」を見取る「記録に残す評価」の場面があります。しかし、学習によって、子どもたちが身につけたことを評価し、学習改善、指導改善につなげることを考えると、1時間目から記録に残す評価を行うことは、難しいと考えられます。子どもたちが学習によって力を身につけ、評価できる時期に（単元の後半や学期末などに）、「記録に残す評価」を行うことが適切な評価となります。

6 単元指導計画（全7時間）※◎は、本時

時	目標	主な活動（◎中心活動）	評価	評価方法
1	第三者を紹介する表現を知り、単元の見通しをもつ。	◎先生達の身近な人についての紹介を聞き、単元のゴールをイメージする。 ・できることを伝え合う。	聞くこと ◎◎	観察 評価シート
2	身近な人を紹介する表現に慣れ親しむ。	・キーワード・ゲーム ◎アツキカード・ゲーム	聞くこと ◎◎	観察 評価シート
3	得意なことを表現する表現に慣れ親しむ。	・有名な人の得意なことを聞き、キーワード・ゲーム ◎Who is he/she? カルタ取りゲーム	話すこと ◎◎	観察 評価シート
4	第三者を紹介する表現に慣れ親しむ。	・Who is he/she? カルタ取りゲーム ◎の3人組紹介ゲーム	話すこと ◎◎	観察 評価シート

1時間目：「聞くこと」

③効果的な評価になっていますか。

指導案の単元指導計画には、4時間目と6時間目に「話すこと〔やり取り〕」の「知識・技能」を評価する場面があります。この場合、評価を生かすために、次のようなことが大切です。

【4時間目】「話すこと〔やり取り〕」をする子どもの様子を見取る（1回目）。

【5時間目】4時間目で「C」評価の子どもの学習改善になるような指導を行う。
（例）A評価の子どもの「やり取り」の様子をクラスで共有する。

【6時間目】「話すこと〔やり取り〕」をする子どもの様子を見取る（2回目）。4時間目で「C」評価の子どもの「B」評価の力がついてきているか確認し、指導が適切であったかをみる。

評価を行う際は、どの場面で評価することが子どもたちにとって一番効果的か、指導者の指導改善に効果的かを考えるなど、評価を行う目的を指導者が明確にもっていることが大切です。子どもの学習改善、指導者の指導改善につながる評価を行いましょう。

4時間目：「やり取り」			
4	第三者を紹介する表現に慣れ親しむ。	◎Who is he/she? カルタ取りゲーム ・5の3友達紹介クイズ ◎先生クイズを作る	◎身近な人について合う技能を
5	第三者を紹介する表現に慣れ親しむ。	◎Who is he/she? カルタ取りゲーム ・5の3友達紹介クイズ ◎先生クイズ大会をする	◎身近な人について合う技能を
6	他者に配慮しながら、身近な人について紹介する。	・学級の友達紹介クイズ ◎写真を見せながら、身近な人の魅力を紹介する。	◎身近な人について合う技能を
7	身近な人について紹介カードを書く。	◎紹介したい人物の魅力が伝わるカードを書く。	◎身近な人について合う技能を

6時間目：「やり取り」

II 言語活動と評価

講義の後半は、3観点の評価について考えました。

①「知識・技能」

「知識・技能」は、評価規準に示された言語材料を正しく使用しているかどうか、その言語材料を正しく聞き取っているかなど、言語材料にかかわることを見取ることが必要です。

②「思考・判断・表現」

コミュニケーションを行う目的や場面、状況に応じた言語活動になっているかを見取ることが必要です。そのために、「思考・判断・表現」の評価を行う際は、具体的な目的や場面、状況の設定が欠かせません。子どもたちはその場面等に合った内容や表現を考え、実際に英語を使用し、指導者はこの様子を見取ります。

【場面設定の例】「新しいALTが9月から自分たちの町へ一人でやって来る。新しいALTに『この町（学校）に来てよかった！』と思ってもらうように、自分たちの町を紹介しよう。」
→「初めてこの町にやって来るALTに、どんなことを伝えたら自分たちの町を気に入ってもらえるだろう、どのように伝えたら、自分たちの町のよさが伝わるだろう（内容）」「これまで学んだ語句や表現のうち、どれを使えばいいのだろう（表現）」と、子どもたちが考えることができるよう、具体的な場面を設定することが大切です。

③「主体的に学習に取り組む態度」

「思考・判断・表現」が「聞き取っている、伝え合っている」などの様子を見取るのに対し、「主体的に学習に取り組む態度」は「聞き取ろうとしている、伝え合おうとしている」などの様子を見取ります。このことから考えると、「思考・判断・表現」を見取る活動と同じ言語活動から評価することができます。

このほか、直山視学官からは、テストとして使用するワークシートの設問について、指導者が評価したい観点をみることが出来る発問、場面の設定になっているか見直す必要があることなどの話がありました。

本研修での学びを日頃の指導に生かすとともに、各校でも交流し、外国語教育の充実に役立ててほしいと思います。

